

令和6年度第2回小牧市立図書館選書委員会会議録

1 開催日時 令和7年1月20日（月）午前10時00分～午前11時30分

2 開催場所 小牧市中央図書館 4階 多目的室

3 出席委員 委員長 長谷川 裕城
副委員長 丸山 真由美（欠席）
委 員 関戸 祥子
〃 奥村 理恵
〃 白木 泰子
〃 布施 江利子

事務局 岩本館長
花里係長
平山
宮崎
片野

傍聴者 0名

4 議題 （1）選書について
（2）雑誌の休廃刊及び新規購入について
（3）その他

5 会議資料 次第 選書資料（資料1・資料2） 雑誌資料（資料3・資料4）

6 議事内容

（1）選書について

選書資料1 『女霊の江戸怪談史』について

結論：可

【奥村委員】可

女霊の江戸怪談史ですけれども、私は可にしました。最初は、どうして女霊に限るのだろうと思ったのですが、文芸とかお芝居とか、江戸時代からは女の霊のものが作

品になっているということで、内容も面白く読みやすいかなと思いました。

【長谷川委員長】可

自分も可にしています。すごくいろいろな角度から宗教、文化、生活などを見ていて、挿絵もあって読み進めやすいかな、次のところも読んでみたいな、と思ったので可にしてあります。

【布施委員】可

私も可にしてあります。女霊、日本の怪談というものをきちんと文学的作品として書いてあるなと思ったので。いわゆる怪談のような胡散臭い感じではなく、きちんと古典文学として面白いなと思ったので可にしました。

【関戸委員】可

私も可にしてあります。皆さんおっしゃったとおりで、内容に難しいところがあるものの読み物として読める良さもあるのかなということと、挿絵もなかなか本格的なものがたくさん入っていて、そのあたりをお値段と（比べて）考えても、（購入可として）良いのかなと思いました。

【白木委員】可

私も可です。たしかに女霊に目を向けた江戸の怪談史というのはよくテーマにはなるのですが、また違ったテーマで勉強出来たり、江戸のこういった歴史の原風景を感じることもできてとても面白かったです。

【長谷川委員長】

ありがとうございます。全員一致ということで、可をお願いします。

選書資料2 『新修民俗語彙』について

結論：可

【長谷川委員長】可

自分は可にしました。タイトルの的には全然興味がなかったのですが、手に取ったところ、内容ごとに整理されていて読みやすかったなというのが第一印象だったので、ぜひいろいろな人に読んでいただきたいなと思って可にしました。

【布施委員】 不可

私は迷って、不可にしました。偶然開いたページが「ものもらい」のところで、大阪では「メバチコ」というのだという項目とかは少し面白かったのですが、一体それがどういう辞典として使うのだろうと考えるとだいぶマニアックだなと思ったので。使っている人を見てみたい気もするのですが、いまのところは、需要があるのかと（疑問に）思って不可にしました。

【関戸委員】 不可

表紙をみて、これは面白そうだなと思って中を見ました。本当に全国、沖縄から北海道まで網羅してあったので、学生時代に民俗学を少しかじったときに見聞きした言葉を拾おうと思ったのですが、この辞書には全然出てこなくて。だからきっとこれは、自分が学生時代の時よりもさらに昔の言葉が網羅してあるのかなという感じがしました。そうすると本当に研究者の人が使うものなのかなと思ったりして、私の中にはハテナが3つぐらい浮かんできてしまったので、図書館になくても良いのかな、ということで不可にしました。

【白木委員】 可

私も迷ったのですよね、確かにそれで。ただ日本語であるのにまるで外国語のような新鮮さというか、日本語の幅広さみたいなものを感じることができるかなと思いつつ。でも私も評価項目の中では利用度は一番低く点数をつけたのですよ。ただ、やはり興味があって勉強されたい方はご覧になるのかなと思い、可といたしました。

【奥村委員】 可

私も、可にしましたけれども、ものすごく迷いました。なくとも良いのかなという思いはあります。この本を「どうぞ見てください」といわれて見ると面白いのですが、その言葉を調べようという人が、これに辿り着くかどうかという疑問があります。私も全然勉強してないものですが、民俗語って一体なに？という始めの部分から分からなくて。

【白木委員】

方言とかではないですか。

【奥村委員】

読んでみると（民俗語とは）やはり農業とか生活とかに基づいたものなのだなということは分かりましたが、その言葉を調べたいと思う人が、なかなかこの本に辿り着けないような気がして、違うところで調べるかなと思ってしまうのですよね。でも、知りたい人もいるかもしれないという思いもある。中身の項目を見ると、こんな言葉もあるのかと面白いので、一応可にはしました。

【白木委員】

面白いですよ、確かに。全然分からない言葉とかあるし。

【関戸委員】

きつともう今は使われてない言葉ですものね。

【白木委員】

本当にそうですよね。

【長谷川委員長】

いろいろと意見が分かれてましたが、可という方が多いので、購入ということでお願いします。本の紹介の仕方とかが確かに難しくて、（購入後にはいかにこの本を必要とする人に繋げるかが）大事になるのかなというふうに思いました。

選書資料3 『式亭三馬の言語描写』について

結論：不可

【布施委員】 不可

私は不可です。式亭三馬の言語描写が面白いと思って国文学をやっている方が、ピンポイントで調べるものだと思う。いろいろな作品が載っていて、その中のこの人の表現は面白いよという内容だったら良いのだけれど。だから、多分これを手にする人は、この人について学んでいる国文学の学生かなと思う。そうすると、（その学生自身が）これをピンポイントで買えば良いのかなと考えてしまうと、（図書館としては）需要がないかなと思ったので、私は不可にさせていただきました。

【関戸委員】 不可

私も書名を見たときに、これは面白いのではないかと思って中を開いたのですが、本当に申し訳ないのだけれど読めなくて。研究論文のまとめだろうなと思う。そうすると、これは布施先生が言われたように、学生さんが長崎先生（著者）のもとで学ぶときのテキストかというような思いがあり、価格も高額ですので、図書館になくてもいいのかなと思い不可にしました。

【白木委員】可

確かに高額ですね。私も同じく評価項目での利用度は一番低くしたのですが、ただ内容についてこの式亭三馬という人の存在感や、この人の言語描写というのはやはり独特だと思うので、私も万人に向くかといったら疑問ですが、興味のある人にとってはものすごく面白いと思うのです。もし私が興味のある人だったらたぶん手に取ると思うので、私は可にいたしました。

【奥村委員】不可

私は不可です。やはり専門的すぎて、細かすぎるということで、利用度は少ないかなと思いました。

【長谷川委員長】不可

私も不可です。中身はどうかなと思ったら、やはり専門的でした。小牧市立図書館の所蔵にある『式亭三馬集』を見ましたが、貸出履歴が0回だったので、たぶんあまり式亭三馬についての本を、手にはとっても借りる方はいないのだろうなと思ったので、不可にさせていただきます。

【長谷川委員長】

ということで、不可の方の数が多いので、不可ということでお願いしたいと思います。

選書資料4 『悪魔学大全』について

結論：可

【関戸委員】可

表紙を見て、ちょっと何だこれと思ったのですが、内容は面白いといえば面白いかなと思いました。これが好きな人はきっと好きなのだろうなと思ったのです。そして奥付を見たら、なんと1959年に書かれた本で、それが65年を経て新版としてこうして作

られ復刻されたことは、それなりに何か需要があるのかなと思い、これは図書館にあっても良いのかなと思いました。あと、この関連の冊子が借りられていますよね。ですから新しいものとしてもあっても良いのかなと思ひまして、可にしました。

【白木委員】 不可

私は不可です。たぶん私だったら読まないという、あくまでもそんな感覚で決めているのですけれども。やはりシンプルに使いにくいというか、この手のものは辞典ですから、文字が多いうえに細かくなってしまうと思いますよね。三段になっているから読みにくいし字も小さいし。ですから、このリアルな表紙とともに、少し軽い表現ですが、オカルト的なので私はいらないかなと思いました。不可です。

【奥村委員】 可

私は可にしました。私も使いにくいとは思ひます。内容もなんだか、人の名前とかがあり、悪魔そのものというよりも、宗教の歴史として、この人がこう迫害しましたよ、みたいな感じでした。それで、事典としては使わないと思うのですよ。悪魔について調べようと思ったときには使わない、使いにくいと思ったのですが、それこそ歴史のあるというか、もっとも権威のある事典の復刻版とあって。値段も安いし。それで、すでに所蔵している『悪魔と悪魔学の事典』や『魔女と魔術の事典』のほうが全体的に見やすいし、調べるにはこちらだと思ひけれどやはり、すごく権威のあるものを見てみたいと思ひたら、良いかもしれないと思ひ、可にしました。

【長谷川委員長】 可

自分も可にしました。すでに所蔵している『魔女と魔術の事典』がたくさん借りられていたので。ただ、それとは少し雰囲気違って、先ほど奥村委員がおっしゃられたように、細かく裁判記録とかいろいろなことが書いてあったので、なんとなくの雰囲気のものだけでなく、もっと読みたい人が読むのかなということで、利用に繋がってくるかなと思ひ可にしてあります。

【布施委員】 可

私も可にしました。絵とか結構リアルで怖いなと思ひたのですけれど、事典として使うかどうかということよりも、宗教的な、本当の裁判のことが書いてあったり、キリストとか、そういうことでの深い話が細かく書いてあったので、図書館にあっても面白いのかなという気がしました。

【長谷川委員長】

ということで、可が多数ですので、可をお願いします。

選書資料5 『感謝表現の発想法と歴史』について

結論：可

【白木委員】可

今回の選書資料の中で、この本の評価項目はオール5にしました。内容、装丁、とても面白くて。柳田國男のことに関して触れていて、これは私にとっては最高でした。可です。

【奥村委員】不可

私は不可にしています。私は全然響かなかったなと。タイトルを見ると面白いのかな、どんなことが書いてあるのだろうという気にはなりましたが、歴史にあまり興味がなかったというか。表現の歴史というものを、そんなに深く考えなくてはいけないのかと思ってしまって。

【白木委員】

「すみません」という言葉が「ありがとう」という言葉の代わりになってしまっているような、日本の最近の言葉ってあるじゃないですか。そういうのが結構気になっていて。何でも「すみません」ですませるのではなくて、「ありがとう」は「ありがとう」であるし、「すみません」は「ごめんなさい」、そのあたりのことを少し立ち返るという意味では良いと思います。この本に関係はないですけど、そういう意味で（私は可にしました）。

【長谷川委員長】可

すごく興味があるタイトル内容なので、自分は可にしています。たぶん同じように手に取る人は多いだろうなというふうにも思いました。ただ、自分には難しすぎるなというのは思ったのですが、きっとそういうのが好きで、読み進めていく方もいるのだろうなということで、可にしてあります。

【布施委員】可

私は可です。私も面白いなと、今回の選書資料の中でも面白い本だなと思いました。これ（関連資料『気持ちを表す和のことば辞典』）を見たらすごく面白かったのですが、「ありがたし」から来ている「ありがとう」の言葉を、古典の授業の中でも言うのですが、今の子どもたちは気持ちを表す言葉を知らない。それで、授業のなかでも「いいね」で終わってしまうのですよね。「いいね」「わからん」「つまらん」「きもい」くらいで終わってしまう。そういうことを教える人たちが、いまの若い先生方もその由来は知らないと思うので、こういう本を読んで欲しいなというつもりで、可にしてあります。

【関戸委員】可

私はこれを最後に見たので、じっくり読んでいなくて。内容的にも研究論文的で、やはり研究機関で（購入すれば図書館にはなくて）いいのかなと思い、最初は不可にしようと思いました。ただ、ところどころ読んだら面白いと思う部分があったので、もう少しじっくり読んだら、これは面白いのかな、ということを思い、可でいいかなと思います。

【長谷川委員長】

では可のほうが多数ですので、購入をお願いします。

選書資料6 『中国庭園図解辞典』について

結論：可

【奥村委員】不可

私は不可にしました。というのは、辞典なのですよね。辞典じゃなく中国庭園が見たいという感じでして。専門的に見たら本当に細かいところまで、網羅されているのかなという気はしますが、もう少し大きな絵で中国庭園を見たいなという気がして。一般としては辞典で見ることはないと思う。値段も結構しますしね。

【長谷川委員長】不可

自分も悩みながら、不可かなと思います。奥村委員と同じですけど、すごく細かすぎて、中国庭園ってそもそも何というイメージがない自分からすると、たぶん日本人の多くはそんなに中国庭園を見てないと思うのですが、辞典を入門書として読むことはないかと感じました。あと、例えば、どこ、どこにある、どの庭園のものだとかが書いてあるなら辞典だと言えると思うが、自分は気付かなかっただけかもしれませんが、そう

というのがなかったように思ったので不可にしております。

【布施委員】可

迷ったのですが、可にしました。中華街の建物や店の名前、雰囲気などが載っていて、私は知らないのですが、こう出されて見ると面白いなという。ただ、これを手に入る人達はどういう人なのだろうか、とは思う。でも関係している本は、多くはないですけど、それなりの需要があったりするので、あっても良いのかなという気はしました。

【関戸委員】可

私も、すごく迷ったのですが、可にしました。確かに小さいけども、美しいし、楽しいし、索引もあるし、日本との違いがこれを見たら分かるし。実際に見るにはたぶん、こんなところには行けないと思うので、楽しいし。それで、これの日本版があったら、日本版と一緒に見たいかなと思ったので、可にしました。

【白木委員】可

私も迷いましたが、可です。中国って私の周りのひとがすごくのめり込んでいる。だから、やっぱり深く深い国だと思うのですよ、いろんな意味で。ですからこの歴史に対してこれを面白い人には凄い本なのだろうなと。私は読まないかもしれませんが、そういった意味では必要かなという気もいたしました。可です。

【長谷川委員】

では可の方が多数ですので、購入でお願いいたします。

以上6冊について終了いたしました。

（２）雑誌の休廃刊及び新規購入について

【長谷川委員】

では続いて議題の2があります。議題の2『雑誌の休廃刊及び新規購入について』事務局より説明をお願いします。

【事務局】

ではまず、お手元の資料3「休刊・廃刊又は受入休止雑誌一覧」をご覧ください。本市では、年に6回以上刊行している資料を雑誌、年4回以下や不定期に刊行している資

料は一般図書として購入しております。

今年度は、休刊・廃刊した雑誌や一般図書扱いとなった雑誌が 11 誌ございました。それがこちらの一覧です。

続いて資料 4「令和 7 年度新規購入雑誌候補一覧」をご覧ください。こちらは内容、蔵書バランスや利用者ニーズ等を勘案し、新規購入する雑誌を図書館側で選定した候補リストです。あくまでも候補となりますので、全ての資料を購入するとは限りません。委員の皆さまのご意見をもとに選定していきますので、このリストについての賛成・反対ご意見のほか、推薦雑誌などございましたら、ご発言をお願いいたします。

【長谷川委員長】

ありがとうございます。ではみなさん、いかがでしょうか。

【関戸委員】

この 8 番の『mr partner (ミスターパートナー)』というのが想像がつかないんですけど、これはどのような感じの雑誌なのでしょう。

【事務局】

はい、こちらの『mr partner (ミスターパートナー)』という雑誌は、イギリスの生活について載っている雑誌です。

【白木委員】

ごめんなさい、私が女性なので知らないのですが、この男性生活の『GOETHE (ゲーテ)』というのは、少し独特ではないですか、名前ですとか。

【事務局】

『GOETHE (ゲーテ)』はジャンルでいうと男性の生活というところで、最近の内容で言いますと、例えば時計ですとか、男性向けのアクセサリやアイテムなどの特集を載せているようです。

【白木委員】

いわゆる女性のファッション誌はすぐ想像がつき、イメージが浮かぶのですが、男性に特化した雑誌もあるんですね。

【関戸委員】

最近はそうですね。

【布施委員】

こういう感じみたいです。（携帯画面で雑誌表紙を共有）

【関戸委員】

ファッションだとかそういったアイテムだとかという感じですね。

【布施委員】

表紙は木村拓哉です。

【関戸委員】

そのぐらいの年齢層という感じですか。

【白木委員】

そうなのですね。最近の男性も、スキンケアとかするみたいですね、おしゃれな方が多いから、結構見る方いらっしゃるかもしれませんね。

【長谷川委員長】

他にはよろしいですか。

（他、委員より意見なし）

【事務局】

では、このリストの候補雑誌の中から、新規購入する雑誌を選定していくことについて、お認めいただくことで異議ございませんでしょうか。

【委員】

はい。

【事務局】

ありがとうございます。では、このリストに沿って新規雑誌を購入していきたいと思

います。雑誌については以上です。

(3) その他

【長谷川委員長】

連絡事項・報告事項等はありませんか。

連絡事項等ないので、事務局の方へお返しします。

【事務局】

長時間にわたり、ご協議いただきありがとうございました。

事務局より一点、ご連絡させていただきます。

この選書委員会は任期が2年となっております。委員の皆さまにおかれましては、この第2回選書委員会が最後の委員会となります。ご多忙の中、図書館の選書にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

次年度の委員の選出につきましては、後日改めて事務局より連絡させていただきますので、よろしくお願いいたします。